



# みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

## 14

mizutsuki 2026

2026年初夏  
「水」がテーマのアンソロジー  
みずつき14

発行：2026.06.08  
短歌：ご寄稿くださった皆様  
企画・編集・装丁：千原こはぎ  
<http://kohagiuta.com/>

# みずつき

「水」がテーマのアンソロジー

## 14

mizutsuki 2026

ご参加  
いただいた  
みなさん (五十音順)

梅ふみむ	@umefum	小泉夜雨	@kozumi_yau
泳二	@Ejshimada	棹流	@saoru_xyz
枝豆みどり	@edamame_midori	坂口栞	
河鹿	@kazuka0124	桜丸ノリ	@wJ59f8NwrfuJvq3
梶原一人	@MhDekopin	Salan	@wadachi_plus
歌島孟	@Sinn1990	Sand Pawns	@alen_ies
片羽雲雀	@anjy92091554	東雲航	@sinonome_tanka
瀬井戸	@kaionjioe	澁谷幸司	@kainohi
かわぐち		西鏡	@xi_zhen_ivUT
北乃銀猫	@Silberekatze_	ソウシ	@sixiaouT88MBIgp
北谷雪	@kitaya_misomiso	台風のめ	@ima_kaihi
橋高なつめ	@coconutkikko	多香子	
桐野黎	@Tower11710	高宮じびり	@takamiya_digiko
九条律志	@Ritu1046	tanKaiLife	@tankaiLife31
うみな	@cocona_nicochan	千原(一)はち	@kohagi_tw
明里水也	@m_rya_o		
有村桔梗	@chattenoire_k		
井倉りつ	@uta_litz		
宇井モナミ	@kijousan		
牛隆佑	@ushiryu31		
宇祖田都子	@shimsyutu2020		
うみ	@X0uminokokoro0x		



mizutsuki 14  
<http://kohagiuta.com/design/mizu14/>

じゅんかん

あまどいを落ちる雫がパークスできみの歌だけうたってる梅雨  
重力に縫い付けられた球体は海と呼ばれて形をわすれ  
わたしまだ水になれないきみという水素がない そらを見上げる  
水溜りが消えてたから きみはまた帰ってくるね雨傘の上  
雨になるひとたちのこと 残された名前のことを忘れない 海  
麦茶にも前世はあるか 来世では君の形で会いにきてよね

雪村詩葉 @favorankasiyoh

溺れる

わかれぎわもろつた白いハンカチのこんななんぼあつてもいいですからね  
そんなことばかり考えていた詩の棘がささったままの人差し指の  
パッチワークの柄が合わないにべもなくすべて拒否する春の布地よ  
一度覚えたたら忘れることはない溺れるみたいにあなたみたいにな  
なにもかもなげだしたいほどなげやりのうたに転がってゆくチョコボール  
虫は泣いているわけじゃないよと言いつながらあなたはすべての窓を閉めたり

ヨシダジャック @jacksbeans2

サイフォン

頭蓋骨をお湯で温めネガティブをサイフォン式で抽出していく  
安っぽい炭酸胸を支配する汗ばむ夏の過ちになる  
炭酸がひっくり返った夕立が帰路の車道を濡らして逃げた  
適当な相槌を打つ彼女らのフラベチーノのカップの雫  
心臓の鼓動のようにぼたぼたとトイレの蛇口の首絞めるとき  
天井の直線に合わせて手を回す水掻き分けて限りなく舟

渡部敦則 @norianzu\_1

つくだとしち	@toto_books	柁木みなも	@omotemizu	宮嶋いづく	@miyazima_izq
低体温で	@tetatondo	非常ドット	@hijyouguchi_dot	みんみん	@ttk94RwH5rNNT
十浦 圭	@urato_kei	笛地静恵	@Xmcc6rhzyEz9wq	村田一広	@mucc12022
このもつかち	@tonomozukasa	福山秋歌	@momoka_fukuyama	山野ゆかり	@natsutani_clara
中村成志	@nakam8	布施亜季子	@aco_kojin	由香	@it_yukashi_mahy
ナタカ	@utanataka	古井 朔	@saku_furui	雪村詩葉	@favorankasiyoh
natsuko	@nuts722	古井久茂	@fujidom	ヨシダジャック	@jacksbeans2
七澤銀河	@Ginga_Nanasawa	本条恵	@singles_cafe	渡部敦則	@norianzu_1
榎原もか	@kiharaneke	牧角うら	@mkkdoki		
根無 ネム	@singshortsong	三浦なつ	@natsumiuraok		
灰島りん	@hajijima_rinko	深影コトハ	@cotoha_mikage		
羽島かよ子	@kayoko_31	水上歌眠	@kamin_plz		
薄荷。	@aieohimeco	南の島	@_nrkmm		
はじきもち	@moshimoshi_moni	みはづひたき	@osyoyuu		
はるかぜ	@spring_bird_gr	宮下一志	@lama_miyashita		

75名

皆さんのご参加  
ありがとうございます！

## 虹の果て

雨粒をはじく音からあふれ出す明日に向かう鮮やかな朝  
指先をつたっていくねことばより大事だったのさよならひとつ  
しゃぼん玉弾けるあいだ歌うから虹ができるまで僕を呼んで  
どこのこねこが跳ねたんだ水たまり雫がころりころりまわる  
まだ君を引き留めている小糠雨、幕を開けてももういいだろう  
七色の傘をくるくる踊りだす果てにはきつと夢があるんだ

明里水也 @m\_rya\_o

## ひかる噴水

炭酸水を炭酸水で割るやうにあかるさばかり飲みこんである  
逆上がりできないままで生きてゐるわたしのためにひかる噴水  
いちめんの水田にうつるゆふぐれのなかを電車は走り抜けたり  
淋巴とふ流れをしんと閉ぢこめてわたくしひとり川沿ひをゆく  
みづうみに沈めたままのさみしさとときどき会ひにゆくための旅  
ひとりひとり 雨の匂ひのあぢさゐのぬならぶ道をゆつくり歩く

有村 桔梗 @chattenoire\_k

## 火曜日は雨

雨粒はレインドロップ言い換えて軽やかなふり踏み出した朝  
長靴で来ればよかったこんな日は水溜りごと蹴散らす火曜  
駅前灯りが夜に反射して雨降る街は倍の寂しき  
玄関でぶるんと傘の水を切る昔飼つてたコリーを想う  
タイトルは琥珀色の日々ひとりきり烏龍茶越し部屋を眺める  
忘れないでも届かない君の声いま透明な湖の底

みんな @itk9x4rwH5rxNT

## 雨にもたれて、雨がさざめく

水たまりの奥にはこの街そつくりの青く透き通る街が揺らめく  
先客の蛙がまぶた閉ぢしころり眠りしころに雨だれが落つ  
打つそばから文字滲みゆく内部まで雨の沁みたるノートパソコン  
かすかなる雨にもたれて君を待つ君の気配に雨がさざめく  
夕立で飛び込めるカフェタ立を集めしやうに泡立つソーダ  
かき氷が溶けて真つ赤な水面となりゆくまでのあなたの不在

村田 一広 @mucc12022

## Spook out

みずうみに春花火 遠い空のこと 知らなくていい爆撃の音  
Spookout なにが起きたかわからないままで終わられてそれならそれで  
琵琶湖には神様がいる 怖くない痛くないようにお願いしまし  
いのちって生きているから許される いのちとこみの境目はどこ  
どこまでもこのまま沈みたい探さないで誰にも見られたくない  
瑠璃色の夜明け波打ち際に虫 打ち上げられた魚の死骸

井倉りつ @uta\_litz

## 空とレインブーツ

水たまりに隠れた空を踏んじやったレインブーツがまだ乾かない  
自転車のかごで揺れる炭酸水夏の光を乱反射して  
側溝に濡れた百円自販機のコカ・コーラが売り切れている  
くらげには出会いも別れもないだろう波に行方を決めさせていて  
水桶に沈める野菜浮き上がるトマトはみんな未熟なトマト  
新しいほくろに気づく一日の終わりにぬるい湯船に浸かり

宇井モナミ @kiyou-san

## したたる

雨の名のどわかひとつを降りながらただ忘れられてしまひたかつた  
クレソンをばつきり齧る身のうちの明るいほうへ水は流れて  
きみの手に洗はれてゐる心地して石鹼水に指紋が消える  
遠雷をこはがらないでほんたうの雨は書物の中にだけ降る  
錆びてゆく体に雨が冷たくて百合の名前の都市がうれしい  
もう一度会ひたくなくて水だけで孕んでしまふ花園にある

山野ゆかり @natsuran1-clara

## 水深×〇×〇

ここが沼冷たいけれど生温い汚れたいのよ喉の奥まで  
終電の残り香の中ほろ酔いで霧雨纏い足取りふわり  
優しさとはコンビニ傘を奢られる相合傘の許可は下りない  
呼び出され浮かれおめかしただけで市民プールで何故かバタ足  
シャワー浴びフルメイクしたその後は貴方の髪を乾かす時間  
ここは沼一寸先も見えなくて目線足跡おぼつかず2つ

由香 @it\_yukashi\_mahy

## 浸潤影

東京で渴く瞳に目薬を見上げた網棚「音楽と人」  
帽子ごと固めたカチモリアレンジの髪は鱈な街を泳ぐの  
焼きたてパンの香り甘い汗のにおい祈りの花の上で目醒める  
はい吸ってー止めて！ ばっちり浸潤影空気は黒で水分は白  
満ちてゆくオルゴールバージョン二周目をきく点滴・回復室にて  
ヒスイガラス壁が立つたびんき急ぐわたしはわたしを忘れないでね

南の島 @nrkmm

## 近況

沸かされてお湯と呼ばれてまた冷えて水に戻った、おかえりなさい  
布団からはみ出した足 みずうみになりたい 船を腹に浮かべて  
来る 来ない リセットされる夜が明けてリセットされる される されない  
ココナツにストロー挿して飲む さほどおいしくないと思う 微笑み  
塩分を補給できます泣いたあと専用ポテチ(塩味強め)  
あとしまつもしもわたしが水ならば上にしみこみゆるされるのに

みはうひたき @osoyuu

会いたかった、ような気がする

われわれは生前だから枯野ゆくときは水たまりに気をつけて  
空き缶の代わりのペットボトル蹴るデコッデコッと転がるばかり  
草花の屍骸のうえをゆくときにわたしは靴だけが重たい  
月のほうへ風は芒を向かわせる【踏切の音】ここからは死後  
見えるもの見えないものは変わるから 寒暄の貯水池に反射光  
生きている人しか死なない、死ねなくて、別れることももうできないな

牛隆佑 @ushiryu31

## エトピリカ

一滴の無色無臭の水滴がまぶたを盗む その繰り返し  
見えるたび地球のことを想い出す雨に霞んでいるガスタンク  
落ちている軍手が水を請うようでペットボトルの水を注いだ  
真夜中はピアノの脚に耳をつけ地下水脈の音を感じる  
「八割は水」といっても真水ではないとわかってちよつとがっかり  
エトピリカおそろしいほど透明な海を気泡で満たしておくれ

宇祖田都子 @shinnsyutu2020

## 私傷病休暇

だましだまし出勤をしてきたことのめつきを剥がしてゆくやうに雨  
少しだけ外を眺める干してゐた洗濯物とは目を合はさずに  
まひるまに遮光カーテン閉ぢたれば深海魚のある水槽になる  
不知火の果汁を搾りだすやうに風呂場で髪をみじかく刈れり  
まくられた袖からのぞく両ひじの黒ずみのごとわたしが悪い  
目をつむる また目をつむる 雨音がちひさなメトロノームになるまで

宮下一志 @llama\_miyashita

## 水の都に雨が降る 四

小魚が水面に跳ねるはつなつの水の都の胎動の音  
水無月の空気に重くなる小袖じんわり濡れる松風地蔵  
ひと雨が去って瘴気を失った風が柳をさらさら揺らす  
雨粒の波紋いつしか消えていてもすこし相合傘でいましょう  
詩仙の名の酒にほろ酔い散歩道 児守稲荷と白蛇権現  
夕焼けが湖面を朱に染めてゆくこの世はジゴクではありませぬ

宮嶋いづく @miyazima\_izq

## 言ノ葉の祈り

夢浮かぶ水底深く泡言葉 祈りは水面高く空まで  
海深く隠せよ隠せ偽りもここに在りしは狭間なりけり  
かくばかり声ならぬ波掬いとて 言の葉の影耳そばだてて  
濡れた袖ぬぐった涙痕見つめるは我が足跡か未踏の果てか  
言の葉に浮かべ揺蕩う想ひ込め幸あらぬこと願うのみ誰に届けと  
傘越しに見上げる空よ嘘まこと透けてしまえば抱きとめるのに

うみ @x0uminokokoro0x

## 例えばひとつのみずいろ

水波みのお礼一拍遅れきて初夏に桜花を見たような顔  
掬われて水合わせもなく金魚鉢なぜか君とは息がしやすい  
夏空のかんしゃく浴びて濡れ髪で「水も滴る？」自分で言うな  
ハンカチの水玉模様いつからかトランクスと並べて干され  
満ちる日も涸れて傷口ひらく日も諦めはしない私の海を  
みずいろは流れわかれてあわさつてとりどりになる 生きて、生きて

梅ふふむ @umefum

## 泪雨

街角の足音ばかり聞きながら遠いあなたを待つ泪雨  
会った日も別れた夜も雨だった どこにでもある言葉ばかり  
まだそんな歌やってるの まだこんな歌やってるよ たぶん明日も  
先生と呼ぶよな人の面影を知らないままでマイクを握る  
もらったのは少しの拍手と少しのお金ひとり帰り道に傘をさす  
駅裏のカラオケバーのポスターのサインを滲ませる泪雨

泳二 @Eishimada

## cobalt

わたくしのみづうみのように生きていた猫の瞳のなかの天目  
降るまえに雨の匂いがするように悲しみも少し香るといいよ  
Having a moment 　　しずかな人とコバルトの青に浸かる、肩まで  
雨の夜は彷徨う海月に出逢いますか？魂だったものです  
海に行けばしばらく海が恋しくてあなたに逢えばずっと寂しい  
抽斗をあければいちめん海でした潮風の吹く六月でした

枝豆みどり @edaname\_midori

## 湿度の高い日

土手の上からはほとんど分からないつかあなたと飛んだ飛び石  
紫陽花を見ているうちに両の眼の奥にあかるい泉がひらく  
その画家のどの風景もひたひたと湿度の高い日だ、わかるんだ  
濃かったら薄めてねって素麺の晩のガラスの多い食卓  
ピーズフラワー黙々編んでいく夜の水を飲まないあたしも花も  
真夜中の換気扇から雨の音透きとおるほどひとりの夜の

牧角うら @mkdoki

## 産まれるように

水たまり踏みゆくごとに園バスを待つおさなごは春に溶けゆく  
雨宿りしつづける子と晴れる日をならんで待つだけ今日もまた雨  
水槽を間近にながめる子の目には遙か水平線が拓ける  
砕けても尖らず雲は雨になりやさしくきみにふれているだけ  
挫けても負けてもいいよ雨が止むまで子に傘を傾けている  
水底にタッチをしては浮かびくる子らは何度も産まれるように

三浦なつ @natsumiuraok

## もつと畏く大きいもの

なんにでも効くけ、と祖母に持たされた檸檬水飲むとうにかきつと  
冷水機ベダルを踏んだ横顔が正しい白の角度に止まる  
雲降る降る託された気がしたら上手く固めてうさぎにさせて  
ハビタブルゾン様宛 田水張る空食べ稲は育ち伸びます  
伊勢湾の波は鯨のハミングで大西洋は大西洋の  
龍神の足跡がその水溜り光る沈んだ鱗一枚

河鹿 @kazika0124

## れん

すきとおりつつつつしづまられるつわのごとくいだきいるらん  
ふれたればおされふくらみしづみこみまたふくらみてなみはうまるる  
ひろがらんまるくひろがりまじわらんはねてうちけしかさなりあいて  
はなれゆくとおくはてまではなれゆきぶつかりきえてぶつからずきえ  
すきとおりまたうつしだししづまれるかがみのごとくまちつつけおり  
とびゆけるまたぐふれずにのぞきこむひとひらのほがおちてゆらめき

梶原一人 @MrDekopin

## ミスディオール

美しいから足掻くのね はしたなく水を吸いあげてゆく切り花  
舞台では誰よりうまく泣けたのあなたの前では一度も泣けず  
いつまでも涙の池ができぬからドードー鳥も不機嫌そう  
湖に爪先をわずかに差し入れてあなたは月に選ばれた人  
触れられた触れられたかったそれぞれの部位にミスディオール落として  
唇で紅茶を揺らす 退屈なアンセムだけを愛せる夜に

深影 コトハ @coroha\_mikage

## 波を撮る

波を撮るだけの一日 意図という意図を光に洩われながら  
からだごとまばたきすれば複数形を持たないみずと目が合うような  
時を止める力があってもしないだろうやがてかたちの変わる嬉しさ  
この温度を撮りたいのです人生はずぐには拾えない落とし物  
美しい白壊はあつてそのことはいつか私のぶらんこになる  
フォーカスの合わないままにまなうらに風ぐことなき波の巡礼

水上歌眼 @kamin\_plz

アオノコク

水色の線がトラウマかもしれないガラス片には血の痣残り  
塩水が眼にしみますとのたまった私はいまだ海水浴中  
海辺には砂の足跡ばかりあり死体のフリでおどけてみせた  
海に降る透明なままのザワメキに都会を見てた明日にはもう  
真夜中に青い瞳の星たちが迎えに来たよ囁りながら  
真鍮の指輪のような色事師 太陽光が瞳に滲む

布施亜季子 @aco\_kojin

逃げ水

半夏生草 記憶の小道に足踏み入れれば辿りつけない五月闇  
水晶のスズランブローチ白濁し記憶も光も通さぬままに  
いつだって無いものねだりのボクたちの願う明日は逃げ水のように  
水色に水の色はないけれどそれぞれに思い浮かべる水の色  
永遠に雨の予感のする庭で次に咲く花待つための椅子  
通り雨よろこぶ朝顔つるのぼしまだまだたりない濡れてささやく

古井 朔 @saku\_furui

霖雨齋ながめいみ

逃げ水のあなたは追えば追うほどに惹かれてしまう嫌な人です  
山の端へにわか湧きたつ雨雲の、とおいあなたへあくがれている  
繭糸の白い夜雨に包まれて、あなたのいない空は真っ暗  
雨つつみ あなたを想うこともつみかさねたならば叶うでしょうか  
ぬかるみのようなあなたの優しさが憎らしくって逃れられない  
つややかな愁いを帯びて雨上がる。むせ返るほどあなたが好きだ

歌島孟 @Sinn1990

水中花

奥底に溜まる涙みを吸いあげて咲かせた花の啜り泣き  
またね、って別れでしたか 雨の日のハイドランジアくすんだ緑  
深めてく怖さと愉快かきませたマドラーの先一滴の罪  
黒ずんだ腹の奥から溢れ出し飲み込まれてく郭公が鳴く  
ぶくぶくと吐く泡に愠気の混じる鱗剥がれて尾をふる金魚  
一杯の水で覚ました目にうつる化粧のくずれた天上蓮

片羽雲雀 @anj92091554

滴り落ちる

稲田の育つはずだった畦道も食ひ扶持もないヌタ打ちの後  
昨晚とまったく違ふ本日の天気予報に大気が湿気る  
先達と沢を見下ろすポシエットの中の火薬が命と等価  
山葵田を貪る猪に鉄筒を狙ひあはせて鳴る神の音  
うたかたがくるりと回るせせらぎの淀みに沈む赤は濁つて  
剣鉈で分類したら俺よりも金のかかった肉塊になる

古井久茂 @fulidom

神田川を舟でゆく

十分後発の二艘の客のため二社の社員が競って叫ぶ  
エンジンと水辺のにおいにレンタルの帽子のい草のにおいが加わる  
観光客となりてわれらは橋の上の観光客に手を振りかえす  
非常階段でタバコをふかす二人組にとってはいつもの景色のわれら  
秘めていた本音のように橋の下をくぐる時だけ響く波音  
カモメの声に振り向く 通りのどこからカレーが香ったときの感しで

本条恵 @Singles\_cafe

なにもない町

グランデの上はペンティーどん突きの喫茶店での職員会議  
介護士の罵倒語はHow are you?でスルーし次の議題へ進む  
ミルクングは虐待ですという真の気づきにどんな利点があるの  
山裾に五月の風がしけ込んで来なくなった新人は二人  
どん付きの喫茶店からぞろぞろと古参兵のケアワーカーたちが  
この町は特になんにもない町でじゃったら暮らしやすいってこと

涸れ井戸 @kaionijioe

寄り道

相槌も忘れちゃうほどしゅわしゅわが鼻を刺してくるレモンスカッシュ  
サンダル足の家が家へと向かわない夕日は汗に吸われちゃうから  
背骨まで海はわたしをおぼえてて左にすこし傾けて抱く  
ためいきを硝子に生けて少しだけ零れた水は空を映しぬ  
太陽の文字が浮かんでくる肌に慈雨のようなトラネキサム酸  
ゆっくりと海が傾く音がする耳に雫は閉じ込められて

かわぐち

## みずのひととせ

三月の雪解け水は春の声冬靴のまま泥濘を踏み  
空を見る水滴にやや初夏の色含ませ温い恵みが来たる  
揺れている裾を滴る水滴はほんの少しの真夏のたるさ  
木々揺らす風が連れてる湿り気がやがて色付く葉を囁かす  
薄氷割れた下には雪空が映るそろそろ冬の仕度を  
しばらくは水とともに春風を待つ靴音をきゅつきゅと鳴らす

氷乃銀猫 @Silberkatz\_

## 水無月の余話

朝を待つ船旅のよう雨降りのボックス席の途方のなさは  
盗まれた先で盗まれてあの傘はバトンのように海へ着くかも  
ではそれを教訓と思う？霧雨に傘を差さない国のはなしを？  
ペンギンで説明がつく飛ぶ夢と泳ぐ夢が似ているわけは  
許すとき諦めてもいる氷塊にひびを入れつつ満ちるコーヒー  
クレマチスの花はびんぼけで君の手の如雨露の雫ばかりがきれい

氷谷雪 @kitaya\_nisomiso

## 水面まぶしく君は遠い

湖のほとりに立った背中見て君の抱える荷物を思う  
心には触れられないからせめても凧いだ水面に指を伸ばした  
手のひらですくいあげても透明な冷たさだけが残るばかりで  
一包化してしまおうか愛情も涙もまとめて飲み下そうか  
雨に打たれ佇む姿は美しくなんてないから傘をあげよう  
ゆっくりと海原進む舟のような君の寄る辺になりたかった

柊木みなも @omotemizu

## 水生片

ビニールの傘に群がる雨たちと共に踊ろうさよならわたし  
大げさに笑ってみせた洗濯機がスーツ、ネクタイ、ワイシャツを食べ  
炭酸は黒いほど良い染み渡る声もなくしたのっぺらぼうへ  
歯ブラシはミントブルーを透けさせて蛇口の水へぎゅっと継った  
花丸をいとも汚く描きつつトイレは流す多分愚痴とか  
追い焚きを連打に連打わかってる熱くなるにも限界はある

非常口ドット @hiyouguchi\_dot

## 川から海へ

それぞれの流れの果てにまた出会う何も無かったような顔して  
立ち止まる橋の上から見る川は礼拝堂のような静けさ  
馬鹿だから最初の雨の一粒に気が付くけれど誰にも言わず  
恋人をたやすく忘れゆく川も匂いが変わる夏になったら  
駅を出てひと呼吸おおくゆつくりと人の渦巻く交差点へと  
休日にはテラスで飲もう潮騒とカモメの声に包まれながら

橘高なつめ @coconutkiko

## 無垢だけを

無垢だけを玩具のように散らばらせ笑う君へと突き刺さる雨  
僕の輪郭の中だけに降る雨 傘をささずに行くのはだあれ  
燃える水濡れた炎が交錯し描き出される夢のあとさき  
言の葉のざわめく森のまんなかの静かな池のそばで会えたら  
そっと君のレゾンデートのゆらぎに小さな舟を泛かべる夕べ  
木洩れ日 せせらぎ 囁き 君をふちどるべきすべて連れて 会いたい

桐野黎 @Tower1710

## 旅情六首

〈すい〉というひびききよらか氷水とうげの茶屋の風にふかれて  
どぜう鍋ぬきと三合利根川の取手川風たもとへいれて  
伊賀流の露天風呂から十葉の十字の花の白のきらめき  
百匹の家守むらがる網戸よりもうしばらくで驟雨がきます  
雷鳴の峰を越えつつ轟けば月光菩薩黄金の顔  
かいぼりの川にとんでもないものを見つけてしまいい駐在所へと

笛地静恵 @Xmcx6rhzvJfZgww

## 水中花

水中花 わたしのなかにない水をそそいでほしい ひらく花びら  
ひかりなどなくてもここで輝ける ゆがんだ部屋でまちがいさがし  
うるおいはのどから奥へ びしゃびしゃになる内側に大粒の雨  
あこがれた海はひりひり目にしみる 涙みたいな風が吹いている  
乱反射するから息ができなくて苦しむところ見て笑ってて  
溺れてもいいの あなたのなかでだけ咲く色がある くすんで眠る

福山桃歌 @momoka\_fukuyama

## 汽水域

朝にはボラの昼には鯉の往く川を橋の街灯だけをたよりに満杯の水に落としていく珈琲 静寂はいつも悲鳴のあとに知る事のかなしさよ月光の射す海の昏さに狂いきれない寛解の響きあかるく あかるくてとおいオアシスをまなうらに見る降りだせばひとしく仰ぐしなくて 曇天を縫うシユプレヒコール梅雨晴れにローズマリーのお白い新芽は水をはじいてかおる

羽島かよ子 @kayoko\_31

## 雨音の温度

今日の日を怠惰と名付けてわたしは雨のかなでる音楽を聴くゆうべから降り続いている雨のせい(世界が悲劇の色をしている)雨音に隠れるようにあの人がそっと奏でるシヨパンのエチュードあの人の右手の温度を知ったことまちがいになんてしたくなかった泡ひとつシンクの縁に留まってこの熱はまだ忘れたくない軽やかに時間を切りとる雨音にわたしたちだけが取り残されたら

薄荷。 @aiehinemeco

## 名もなき海へ

みずの声夜明けの窓に露となりいまだ名もなき海を思えり雨の街ビルの谷間に川は伏し靴音のみが海へ降りゆくてのひらにすくえば水は古き空母の胎内揺らめける音稀の雨砂漠の種を宴へと刹那の恋と長き眠りに砂のうえ芽吹ける水は唇の言えぬままなるさよならを飲むやがて水雲へと還り名も消えてひとつの海に眠りひらけり

九条律志 @Ritu1046

## みずのひかり

水の中息できないね僕たちは人魚になって生きていきたいの泡の中溶けてなくなる感情と水に流れる感情とだけ洗濯の水の音とか聞いていると洗濯物になった気分で水滴が模様を描くその狭間なんだか君がニコッとそして星の音ガラスのコップに閉じ込めて水道水を注いで混ざり傘の中2人密かに共有し雨が止んだの気づく間もなく

1)1)な @cocona\_nicochan

## やがて水になる

沈んでくアビスブルーの淵、いまだ 空ろな宝箱を抱きしめたまま開け、花 水なら嫌というほどに遣った 「涙」という名の滋雨を手を浸す冬の水 ねえ 少しだけ 近づきたいの、触れてみたい「死」甘やかな陽が染める海 進むゆめ 捜さずについて、だれも わたしをこのころ 弔い、返すべき水際 探してわたしもそこへ還る「I」でさえ わかりもしないこの身には 帰れる水もないのかな、愛？

はづきもこ @moshimoshi\_moni

## 羊水

水槽を隔てて出会ってみたかった コンクリートの濡れている午後お互いに水着を持ってないことがうれしい可愛いエイの呼吸器暗室に赤色灯はゆるされて精製水の凍としているきみの揺らす現像液は羊水のようにわたしを何度も産んで誰ひとり知らない森の葉の裏のただ一滴の水 だったからその指は庭師の孫にふさわしくわたしの涙をそのままにした

はるかぜ @spring\_bird\_gr

## 前夜

雨の日だけに甦る霊たちをわたしは記憶だと思ひ込む難しいことは考えない代わり黙っていて、何も味のないスープ あなたは井戸を、あなたは春の大風を、あなたはレイトショーを憎んでまるですべてが起こってしまったかのような夜サイレンをただきいているそうまでして欲しかったのは幻想と涙でできた川なのでしょう笑っていたのかもしれないこの部屋が水に沈んだ夢をみた、のに

小泉夜雨 @kozumi\_yau

## 同じみずうみの中で

パタパタと耳に届いた雨音に外の世界へ手招きされて雨の日に空に向き咲くアンブレラ色とりどりの魔法に満ちて雨はそう、思い出多く奪われてペトリコールに拐かされる雨上がり天使の梯子舞い降りて光差し込む心の庵ポコポコリ湖面に向かう命の輪ゆつくり浮上たたいま現世みんなしてハンデをどこか背負ってる同じみずうみ愛しき地球

棹流 @saoru\_xyz

## 氷の世界

私以外全てが水で私だけ氷の世界そういう世界  
流れ方わからないまま蒸発し消えてしまった徒夢の跡  
ふつふつと喜怒哀楽は沸騰し鳴り止まないままくるくる回る  
凍ったらかさが増えるね膨らんだ宇宙の果てのような後悔  
へりに立ち水面を蹴れどもそこにある醜い憎いゆがんだ像は  
サイダーになりたい雲をかきわけて辿り着いたら海に降りたい

坂口菜

## もうい火

にぎやかに熊蜂のきて週末の天気予報を睡蓮に告ぐ  
まばらなる雨のにおいに相方をたしかめている水無月の傘  
もらい火のような不安 青梅のたわわなるころ矜持にかわる  
「サボテンの透明感」をくゆらせる梅雨入りしたる部屋の夜風に  
いまならばとどめおきたい誕生日 年輪ひとつひそかにおいて  
さわやかな目覚めをうたう朝顔の浴衣をひいて眠りにおちる

桜さくろ @wjs9f8NwfuJlVq3

## ラビリンズブル

噴水はある日突然消えていた 誰かが畳んだ屋台みたいに  
海水を閉じ込めたみたいな君の涙に揺れる抜け殻の僕  
炭酸の最後の泡が消えたあとまだ水として生きている水  
この星の海を見捨てた人々を錆びた眼で見上げるクジラ  
みずうみに選って行ったあの人は鱗を脱いだ気丈な人魚  
蘇る、思ったよりもあつさりと また会いましょう水無月の夜

七澤銀河 @Ginga\_Nanasawa

## アイスコールドコーラ

コンビニの隅の見慣れぬ自販機から出てきたコーラは瞬時に凍る  
モームリと言へない過冷却水が過冷却だと気づかぬやうに  
過冷却は身にも起きるか雨音に今朝のわたしはぼたりと凍る  
炭酸を忘れてゐない凍つてもコーラはコーラわたしはわたし  
どの色を推すかと迫るあぢさゐに全部と答へてずぶ濡れてゐる  
また冷える体だらうなああの店にあの自販機は今もあるのか

榎原もか @kharaneko

## おはようエンドリケリー

肺呼吸覚える前の海のこと母って呼んだ Earth と呼んだ  
エトピリカ不惑四十を前にして海上を往けと示すカーナビ  
カップ麺お湯入れてから3分間私ができるまでの25分  
逆引きの Squall の項〈あなた〉とは驟雨、突如私に降る雨  
もし海が全部の星に生まれたらこのジレンマはウニのものかも  
お風呂とか全部目覚めた後にして連帯保証人の印を押す

Solan @wadachi\_plus

## 寺のこくとく深く

MidnightMogardosorumMiddle-earth みんな拒絶の水底だった  
雨の日は指からふらす水のことまざあざあの音に紛れてしまふ  
藍色のコップが割れる液体の河に光が散らばっている  
坂道のイスの都の花売りがマッチの代わりに燃やしている花  
自力では泣けない石像たちのためガスを灯そう腐食雨を待とう  
アトランティス、レムリア、ムー、海水は後悔によって水量が決まる

Sand Pawns @alen\_lires

## はえろつたにみずはいるか

雨に散る花びらに憂いを寄せる密吸い鳥に選ばれた花  
可哀想がられたくて泣くことを許してくれるともだちが欲しい  
淡色のシーグラスに憧れる海に抱かれてまあるく溶けて  
インスタのインスタントな愛じゃないから海の底でうたう人魚  
一緒に連れて行ってよ、ねえと叫ぶ困り顔で笑う沖のひと  
願わくばこの世界が壊れぬよう海底ポストで二人暮らし

根無 ネム @singshortsong

## ゆうゆうと底へ

産み落としあをき羊水ひかる夜えいえんをゆく舟をさがして  
炭酸のあわの底にてまたたける幻影都市へ沈む花影  
ざあざあと世界を洗ふ雨のなちひさな傘がぼつぼつと咲く  
いとしくて夜をたくさん飲みましたわたしのなかの海みたすため  
誰もゐない海辺の駅に降り立てば切符の文字があをく滲んで  
みづいろの絵の具が溶けてゆくやうにゆらゆら沈む子の靴のいろ

灰島りん @hajima\_rinko

ぼとぼと壊れた蛇口を締めあげて手のひらあかくぼとぼとぼと  
制服を濡らす冷たいしずくたち傘はあいつとあの子でひとつ  
ごくごくとするそばからなくなつて違ふコップのあまいスポドリ  
ぎらついた目で球を追うぎらついた日差しのせいで汗がまぶしい  
しゃらしゃらと世界をぜんぶ洗いましたよ雨も涙もひとつになるの  
風呂上がり想い出を飲む濡れ髪がぼとりぼとりと未練たらしく

このもづかち @tonomozukasa

## ST A U B

ごとりと、と生き物のみを閉じ込めて鑄物ホーロー鍋が湯気吹く  
まず葉もの実のもの根もの重ねゆきやわらかいと水であること  
窓口を終えて六秒胃の腑へとアロマ・レインが今、降っている  
野球式投げ方すれば確実に肩がいく鑄物ホーロー鍋は  
蒸されるならばまず右腿を極弱火出来れば蕪を敷きつめたのち  
なにはともあれ塩と甘味を持っている生とはそういう物体である

中村成志 @nakam8

## 水道水

山中のひとしずくから流れ着く水道水は塩素のかおり  
公園のトイレを流す水たちの進路希望はヒーローだった  
コーヒーで茶色く染まる君を見て故郷の母は何を想うか  
真夏日に体を冷やす水滴は乱反射する光のよよい  
ひたすらにビニールプールを埋め尽くすこの透明は羽をあたえる  
雨は降り等しく流す側溝に、僕の憂いも君の笑顔も

東雲航 @sinonome\_tanka

## 或る雨の日の初歌と返歌

鳩啼けば小雨の粒のひとつまで胸の奥処へ落つる夕刻  
傘閉ぢる指に伝ひし雨粒に鳩のかなしみ混じりあひたり  
小雨へと同調したる鳩の啼くたびに見舞ひの刻の迫り来たりて  
濡れ羽根を震はす鳩の啼くたびに見舞ひの刻の迫り来たりて  
雨煙る硝子を淡く濡らしつつ鳩の啼く刻の昏れゆきにけり  
降り止まぬ雨の匂ひを聞きながら消ゆる灯のもと指を探れり

澁谷幸司 @kainohi1

こんなにも静かな象牙しあわせな水浴びをしたこともあったね  
でもそれが良いんじゃないのなんとなく青いハワイの味がするの  
たっぷりとお湯を沸かせばさみしさときみしいことはまた別の色  
この先に給水塔が見えるのをお守りみたいにまだ覚えてる  
ネッシーの眠る湖ぼくたちにあるのはこれからのことばかり  
どこまでも水平線の伸びること 子の話はもうしないこと

ナタカ @utanataka

## 止まない雨

みじめみじめみじめみじめみじめの雨やまず息ができな  
いず濡れてはじめて気づく空だつて泣きたい気持ちなんだろうな  
あこがれた虹の向こうへ越えていく力はなくていま水溜まり  
おいで、いま肩を抱くからこの傘に もつじゅうぶんに濡れたじゃないか  
もしかして止まない雨に立つふたり隣に居るとあなたは言った  
傘を閉じネームバンドを巻いている手つきにしばし見とれてました

natsuko @nats722

## 桜桃忌

気の遠くなるような時をあびてそう、飴色の梁の真下の席は  
この街の水がよいからこの酒が飲める、と白髪のひとはしずかに  
深い海の使いのような雉羽太の鞆やかな身に犬歯をあてる  
桜桃忌 わたしは誰にゆるされて生まれただろう、種を吐き出す  
何処に傘を忘れたのかを忘れてるように世界と折りあえたなら  
雨の来る気配が風に交じりだし遠くで雲が加速している

西鎮 @xi\_zhen\_jvt

## そして水無月を食う

みなづきの響きを甘く懐かしむ梅雨前線から遠い町  
ないのなら作るほかに真四角の器をたんと湿らせている  
上新粉ふくらんでゆく雨雲がふくらんでゆく水無月になる  
煮小豆をのせつつ思う遠ざかる傘の水玉模様のことを  
四角から三角ふたつ切り出してもとには戻らない美しさ  
響き、色、手ざわり、味が違っても雨は雨また水無月を食う

ソウシ @sixiaout8BMB1gp

## ぬうぬうの空

シャワーより宝石シャラシャラ降り注ぎすり切れてゆく皮膚のまぶしいイヤフォンに川の流れを示されて人々しんしん交差点ゆく投げ込んだ石はあまりに小さくてあなたに波紋ひとつ起こらずはみ出したグロスを肌へ塗り広げぬらぬらのまま空に暴かれるかじかんだ手を差し出して街をゆく視線はふいに手袋となる水性の絵の具を重ねつづけければ紫陽花ついに白けて透けた

台風のめ @ina\_kaini

## 花に水やり

春先の渇水に氣息奄々の哀しい庭先きつと雨降る水やりはすれども渇きに追い付かず花もころもひたすらつらい燕去りただ夏の陽にたおれ伏すひと雨待たるる紫陽花の群れもつとよという顔をしてパンジーは日曜の庭で水まきを待つ夕立は豪雨となりて道の上に街を逆さに映して朝やむようやくに息ふき返したる紫陽花の泡粒のような蕾喜ぶ

多香子

## すればいいのに

当分は会えないと知っている夜のきみより先に泣き出した空しかたないしかたないってなんだろうひとつの傘をひとりですとして水底に沈めた声は腐らないかぼそく暗く泡だけを吐くため息はおおきなあぶくおかしいなこんなにはたくそだった息継ぎもういいよ離れていいよ雨上がりいつもよりすこし速い返信水面にはふれば壊れてしまう空すこしは後悔すればいいのに

千原こはぎ @kohagi\_tw

## 命の水 (Aqua Vitae)

升酒のこぼれし皿を垂らし置き命の滴と升に返して二日酔い寝過ごし昼の冷凍庫水を片手にウォッカを迎えるシヨットガン飲み比べして6杯目チェイサーを置きもう一勝負パステイスを水と氷で午後3時ペランダ飲みが南仏のごとパロー口を3回まわしゆつくりとこの瞬間のため生きてきた夏「もういっぱい!」目の据わりたるわれをみて水を差し出す酒店の主

つくだとしが @toto\_books

## 水中探検

みずいろに染められた僕りーんりーんって鳴っている夏ジエンダーレス水着で濡れる八月に九月になったらはぶらしを買う湖のそばで話そう僕たちは本当の姉弟じゃないってさ蛇口からあふれだす水わたくしのたましいみたいにとまってるまごころが静かに眠るダム底の底いままらそれに会いにいきます愛してるって吐くたびに出来る水の泡からはじまる卵なんだよ

高宮でぢこ @takamiya\_digiko

## タイムライン

リポストの増えゆくやうにあまつぶが次第にふかく皮膚を濡らせり自らを水からみづへ渡しをりもうしばらくは傘を差さずにくるい雨しろい雨きつとごましほは雨ふる朝にうまれただらう透きとほる塩らあめんのすうぶから匂ふ静かの海の満潮「重力をすこし軽めにしたから、やや短めでお願いします」みつとしてタイムラインは流れつとときをり喉を潤してゐる

tankalife @tankalife31

## エラ呼吸で棲みついた

シー陶器骨のようにはなれなくて砂と貝殻が吊ってる洗濯機間違え入れたイヤフォンが海の音を「接続しました」閉鎖的神域からの警告は52ヘルツの魂から「海百合の化石が沈み海底で星雲溢れ『願い教えて?』」夜光虫プラネタリウムの真ん中光る群泳流れ星たち病みアカが「クラゲになりたい」言うけど海にはなれず涙を焼いて

低体温。 @teitaijondo

## くうしみずかがみ

深爪がいつのまに痛くなくなつて水槽越しに見るような朝水道のコックが手のひらに刺さる強さで今日を占っている「雨ですね」「雨ですね」って言い合えばつかのま晴れを殺す共犯者水筒を忘れてすぐ会議中いまだけ私すこし乾物陽が落ちて水たまりにも夜が来るちいさな夜を幾つも過ぎる水滴がおちる速度で祈つてるおやすみ明日もさえない自分

十浦圭 @urato\_kei